

第 73 回全日本フェンシング選手権大会

新型コロナウイルス感染対策 ガイドライン

第 1 版



作成日： 2020/08/26

最終更新日： 2020/08/28

フォーマット： 2020/09/14

全日本フェンシング選手権 新型コロナウイルス感染対策ガイドライン 目次

内容

1 基本事項.....	2
2 参加者の遵守事項.....	3
3 施設管理.....	3
4 運用管理.....	6
5 選手・関係者の皆様に守っていただきたい事.....	7
参考 URL	9

1 基本事項

■はじめに

新型コロナウイルスの感染を最大限に防止しながら全日本フェンシング選手権を運営するためには、選手、指導者、保護者、チームスタッフ、競技役員全ての方の理解と協力が必要である。残念ながら感染のリスクは0（ゼロ）ではないため、ひとり一人が自覚と責任をもって自己防衛することが重要となる。自己防衛は、家族や仲間を守ることにもつながるため、「自分は大丈夫」の考えは捨て、すべての人が新型コロナウイルスの特性を正しく理解し、感染防止に努める必要がある。

■新型コロナウイルス感染症の基本事項

新型コロナウイルスの感染経路は、咳やくしゃみ等の飛沫が目や鼻、口の粘膜に付着し、呼吸器に入ることによって感染する飛沫感染が主体であり、換気の悪い環境では咳やくしゃみなどがなくても感染すると考えられている。また、喀痰や鼻水等の体液およびそれらで汚染された環境に触った手で目や鼻、口の粘膜に触れることによって感染する接触感染もあるため、上記2つの経路の感染予防策を徹底する。有症者が感染伝播の主体であるが、無症状病原体保有者からの感染リスクもあるため、常に予防を意識する。

・潜伏期間と感染性

新型コロナウイルスに感染した場合の潜伏期間は、1～14日（中央値は5.1）で、確定した患者のうち97.5%が11.5日（8.2～15.6）以内に発症したと報告されている。

ウイルスの排出は発症する2～3日前より始まり、発症直後に感染力が最も強く、発症後8日で感染力は大幅に低下すると報告されている。なお、発症後7日以降はPCR検査が陽性であっても、ウイルス培養では陰性であり活性は認められないとの報告がある。

鼻咽頭には症候性患者と無症状感染者とでは同等のウイルス量が認められており、無症状であっても感染力があることが示唆されている。

・飛沫感染予防

全員が飛沫感染予防マスク（以下マスクと記載）を着用する。

全員が咳エチケットを徹底し、会話は控えめにする。

人と人が対面する場所ではアクリル板やビニールシート等を用いた仕切りを設置する。

飛沫は空気中を漂わず空気中で短距離（1～2m）まで到達するため、対人距離（1～2m四方）を確保する。換気を徹底する。

・接触感染予防

流水と石けんによる手洗いもしくは擦式アルコール消毒薬による手指消毒を徹底する。

アルコールや抗ウイルス作用のある消毒剤含浸クロスで定期的に高頻度接触部位および共用物の清拭消毒を行う。

2 参加者の遵守事項

1. 参加者に以下を周知、理解を求める。
大会2週間前から大会当日まで下記事項に該当する場合は、参加の見合わせを求めること。
 - ・発熱(37.5℃以上)を認める。
 - ・せき、のどの痛みなど風邪の症状がある。
 - ・だるさ(倦怠感)や息苦しさ(呼吸困難)がある。
 - ・嗅覚や味覚の異常がある。
 - ・体が重く感じる、疲れやすい等
 - ・新型コロナウイルス感染者との濃厚接触歴がある。
 - ・同居家族や身近な知人に新型コロナウイルス感染が疑われる方がいる。
 - ・参加14日前までに政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航歴がある、または当該在住者との濃厚接触歴がある。
2. 参加者においては「健康管理表」を、事前に記入してもらう。
3. 「健康管理表」の管理については、個人情報保護を遵守し、責任者が設定されている。
4. インターネットやスマートフォンによる受付を推進し、現金の授受などが生じないような準備を行う。

3 施設管理

1. 受付では、アクリル板・透明ビニールカーテン・手袋等を準備して対応する。
2. 洗面所・手洗い場所
 - ①手洗い場には石鹸を用意する。
 - ②正しい手洗い方法について掲示をする。
 - ③手洗いに使用するペーパータオルを用意する。(利用者にマイタオルの持参を求めてもよい。ハンドドライヤーについては使用しないようにする)
 - ④手洗いが難しい場合は、手指消毒用薬を用意する。
 - ⑤トイレの蓋を閉めてから汚物を流すよう掲示する。
3. 女子更衣室
 - ①1～2mの対人距離を保つようなスペースを確保する。
 - ②一度に入室できる利用者の数を設定する。
 - ③ロッカーの取手使用時には各選手が使用開始前、使用終了後に手指消毒する。ドアノブなど複数人が接触するものは定期的(開場前・昼食時・大会終了後)に消毒液含浸クロスにて清拭する。
 - ④換気(※)に配慮する、窓や扉が2か所以上なく、換気が困難な場合にはサーキュレーターを使用する。
 - ⑤更衣室入口に手指消毒用薬を用意する。
 - ⑥更衣室のロッカーは使用前後の消毒を行い、ロッカーの使用数を制限することを原則として接触部位が少なくなるような対策をとる。

4. 男子更衣スペース

- ① 1～2 mの対人距離を保つようなスペースを確保する。
- ② スペースの出入口に手指消毒用薬を用意し、更衣前後、移動前後での手指消毒を行う。
- ③ 手すりなど複数人が接触するものは定期的（開場前・昼食時・大会終了後）に消毒液含浸クロスにて清拭する。

5. 選手待機スペース

- ① 1～2 mの対人距離を保つようなスペースを確保する。
- ② スペースの出入口に手指消毒用薬を用意し、移動前後での手指消毒を行う。
- ③ 手すりなど複数人が接触するものは定期的（開場前・昼食時・大会終了後）に消毒液含浸クロスにて清拭する。

6. プレススペース

- ① 1～2 mの対人距離を保つようなスペースを確保する。
- ② スペース出入口に手指消毒用薬を用意する。
- ③ カメラや機材を清拭できるよう、消毒液含浸クロスを用意する。
- ④ ロッカー、手すりなど複数人が接触するものは定期的（開場前・昼食時・大会終了後）に消毒液含浸クロスにて清拭する。
- ⑤ 机にはアクリル板等のパーテーションを設置するか、対面しない着座配置にする。
- ⑥ 選手待機スペースと干渉しないようゾーニングを行う

7. 個別取材場所

- ① 1～2 mの対人距離を保つようなスペースを確保する。
- ② 換気（※）に配慮する、窓や扉が2か所以上なく、換気が困難な場合にはサーキュレーターを使用する。
- ③ 取材スタッフはマスクもしくはフェイスガードを着用し、取材対象選手と1～2 mの対人距離をとる。

8. 映像配信スタッフスペース

- ① 1～2 mの対人距離を保つようなスペースを確保する。
- ② 換気（※）に配慮する、窓や扉が2か所以上なく、換気が困難な場合にはサーキュレーターを使用する。
- ③ 机にはアクリル板等のパーテーションを設置するか、対面しない着座配置にする。
- ④ スペース出入口に手指消毒用薬を用意する。
- ⑤ 共有カメラや機材については消毒液含浸クロスによる消毒か、使用前後の手指消毒ができるようにする。

9. 映像配信機器スペース

- ① 機器接触前後で手指消毒を行えるよう手指消毒薬を用意する。
- ② カメラや機材を清拭できるよう、消毒液含浸クロスを用意する。

10. ウォーミングアップ・クールダウン会場

- ① 1～2 mの対人距離をとって行動できるような動線管理、入退場人数管理を設定する。
- ② 手指消毒用薬を用意する。
- ③ 大きな声での会話や指導をしない。

11. 競技会場

- ①入場から退場時までの全ての場面で、1～2mの対人距離をとって行動できるような動線管理、入退場人数管理をする。
- ②競技時以外はマスクを着用すること。（更衣室・待機スペース・トイレなどで着用するようにする）
- ③外したマスクは袋に入れること。
- ④大きな声での会話や指導をしないこと。
- ⑤飲食については、指定場所以外で行わないこと、また共有しないこと。
- ⑥施設管理者が決めたその他の措置・指示について従うこと。
- ⑦換気（※）を徹底する。窓や扉が2か所以上なく、換気が困難な場合にはサーキュレーターを使用する。
- ⑧ピスト周囲の椅子やテーブルを共有する場合、消毒薬含浸クロスで清拭する。
- ⑨試合後にピストを消毒薬含浸クロスで清拭する。

12. ゴミの廃棄

- ①鼻水、唾液などが付いたゴミは、ビニール袋に入れて密閉して縛り、ゴミを回収する人は、マスクや手袋を着用する。
- ②マスクや手袋を脱いだ後は、必ず石鹸と流水で手を洗う、または手指消毒をする。

13. 清掃・消毒

- ①消毒については用途に応じて消毒薬を選択する。
- ②通常の清掃後に、不特定多数が触れる環境表面を開場前、閉場後に消毒する。

14. 救護室の準備

- ①十分な広さのある救護室を確保し、医師・保健師・看護師いずれかにすぐに連絡がとれる体制にする、発熱者が発生した場合などに適切な対応ができるようにする。
- ②医療用个人防护具（フェイスシールド・ゴーグル・手袋・マスク・白衣など）を準備し、救護者や体調不良者の対応にはこれらを着用して行う。
- ③発熱者が出た場合の隔離室または隔離できるテントなどを確保する。（適切な部屋が確保できない場合は、飛沫感染防止可能なカーテン、パーテーションなどで仕切ったコーナーを用意する）

15. コーチの活動について

- ①コーチの活動に関して、用手接触を伴う運動は禁止とする。
- ②運動指導や救急対応（テーピング等）は、3密を回避した状態で、感染対策を十分に行ったうえで対応可能とする。

16. 飲食について

- ①参加者およびスタッフが食事を摂取する際には個別に摂取する。やむを得ない場合には1～2mの十分な距離をとり、対面しないように摂取する。また食事時の会話は控えるようにする。
- ②食事を摂取する場所が限定され人が密集しないように、屋外も含めた多くの場所で摂取できるように配慮する。対面式のテーブルなどでは、一方向のみの使用とするかパーテーション等の使用を検討する。

4 運用管理

1. 入場・受付時の対応

- ①ガイドライン2 参加者の遵守事項の1. に該当する参加者については参加を見送るようにする
- ②「参加者の時間差入場」「待機人数の削減」「人との距離を考慮した目印」「スタッフと参加者の入退場動線を分ける」等の対策をとる。
- ③「マスクの着用」「大声での会話」「対面での会話」等飛沫感染予防について注意を促す。
- ④入場時に手指消毒液を使用させ、「健康管理表」を確認し受理する。
- ⑤必要に応じて非接触体温計を使用して発熱者であれば、入場を制限する。
- ⑥選手は入場前のスマートアンプ検査を行う。

2. 武器検査時の対応

- ①検査者は手袋を装着し、武器に触れる前後で手指消毒薬による消毒を行う。
- ②一選手終了ごとにテーブル・武器検査機器等触れた場所をすべて消毒液含浸クロスで清拭する。

3. ウォーミングアップ・クールダウン時の対応

- ①選手ごとに「時間帯を分ける」「使用スペースを分ける」など、1～2mの距離を保てるようにする。
- ②コーチは常時マスク着用とし、大声での指導や近い距離での会話は避ける。
- ③腕や手には飛沫が付着している可能性があるため、汗はタオルで拭き取るようにする。

4. 競技時の対応

- ①選手は、マスクは競技用マスクを装着する直前に外し、ビニール袋等のケースで保管する。
- ②審判はマスクもしくはフェイスシールドを着用し、近い距離での会話を避ける。
- ③選手から審判への説明や抗議を行う際には1～2mの距離を確保する。
- ④コーチは常時マスク着用とし、大声での指導や近い距離での会話は避ける。
- ⑤競技終了後に選手・コーチ・審判と握手やハイタッチ等の接触を行わない。
- ⑥呼吸が落ち着くまでマスクの再装着は不要であるが、対人距離を確保し咳エチケットを守る。
- ⑦腕や足には相手選手の飛沫が付着している恐れがあるため、ユニフォームに触れた手で顔や競技用マスクに触れないようにする。
- ⑧ピストに入る前にシューズの消毒を行う。

5. インタビュー時の対応

- ①選手とインタビュアーは1～2mの対人距離をとる。
- ②共有マイクは、都度消毒液含浸クロスにて清拭する。

6. 表彰式の対応

- ①授与者、表彰者ともに、メダル・トロフィー等の授受前に手指消毒を行う。
- ②授与者は手袋を着用するか、授与前に手指消毒を行う。（感染対策をとっていること

が視聴者等にわかるように配慮する。)

③握手やハグは行わない。

7. 競技終了後の対応

①参加者全員が退館しないように時差を設けて退館する。

②ミーティング・懇親会等は行わないよう周知する。

8. 退館後

退館後2週間以内に「新型コロナウイルス感染と診断された」場合には、フェンシング協会感染連絡担当者に対して、報告するように周知する。

5 選手・関係者の皆様に守っていただきたい事

1. マスクの着用について

①選手はウォーミングアップ・競技時・クールダウン時以外はマスクを装着する。(ただし、競技後の荒い呼吸は飛沫が多くなり感染リスクが増大するため、対人距離や咳エチケットに留意すること)

②コーチ、審判は常時マスクもしくはフェイスガードを着用すること。

③マスクが汚染し使用できなくなることを考慮し、替えを持参すること。

④使用済のマスクは会場で破棄せず、自身で持ち帰ること。

2. 手指消毒について

①更衣室、トイレ、洗面所等に入出入りする前後での手洗い・手指消毒をすること。

②目・口・鼻の粘膜からの感染リスクがあるため、競技用マスクは清潔に管理し、装着前後で手指消毒を行うこと。

③競技中・練習中にユニフォームに飛沫が付着している可能性があるため、素手で靴紐やユニフォームに触れた際には手指消毒をすること。

④共用物(ドアノブ、自販機のボタン、椅子、テーブル等)に触れる前、触れた後は手指消毒を行う。

3. 大会前の健康管理について

大会前2週間において以下のいずれかの事項に該当する場合は出場を見合わせる事。

- ・発熱(37.5℃以上)を認める。
- ・せき、のどの痛みなど風邪の症状がある。
- ・だるさ(倦怠感)や息苦しさ(呼吸困難)がある。
- ・嗅覚や味覚の異常がある。
- ・体が重く感じる、疲れやすい等の症状がある
- ・新型コロナウイルス感染者との濃厚接触歴がある。
- ・同居家族や身近な知人に新型コロナウイルス感染が疑われる方がいる。
- ・参加14日前までに政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航歴がある、または当該在住者との濃厚接触歴がある。

4. その他大会当日の留意事項について

①大声での会話や指導は避け、常に1~2mの対人距離をとって行動する。

②入場時検温にて発熱が認められた場合は、大会救護担当者の指示に従う。

③入場前に体調不良となった場合は、会場内に入場せず帰宅するか、判断に迷う場合は

入場口の大会スタッフに申告する。

- ④会場内で体調不良となった場合は、近くの大会スタッフに申告し、移動せずにその場で指示を待つ。
- ⑤頻回の入退館は控えること。
- ⑥使用禁止エリアへの立ち入りはしないこと。（大会前後での消毒範囲や、大会終了後に陽性者が発生した場合の接触部位特定に影響を及ぼすため）
- ⑦私物は可能な限り持参した袋に入れること。
- ⑧選手は、自分の競技終了後、速やかに退館すること。
- ⑨大会終了後、集合しての打ち上げやミーティングは禁止する。
- ⑩競技会主催者・施設管理者が定めたその他の措置・指示に従うこと。

5. 大会後

大会後2週間以内に体調不良となり「新型コロナウイルス感染症」の疑いが生じた、または発症した場合、速やかに日本フェンシング協会まで連絡すること。

※換気について

特定建築物であれば必要換気量（1人あたり毎時30m³）を満たすとされている。機械換気もしくは窓の開放による換気（30分に1回以上、数分間程度、窓を全開する）を行う。空気の流れを作るため、複数の窓がある場合、二方向の壁の窓を開放すること。窓がひとつしかない場合は、ドアを開けること。

参照：厚生労働省「換気の悪い密閉空間」を改善するための換気の方法
<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000618969.pdf>

参考 URL

- ・厚生労働省「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針（2020.5.14）」
https://www.mhlw.go.jp/stf/covid-19/seifunotorikumi.html#h2_1
- ・厚生労働省「新型コロナウイルス感染症 診療の手引き・第2.2版（2020.7.17）」
<https://www.mhlw.go.jp/content/000650160.pdf>
- ・日本医師会「新型コロナウイルス感染症外来診療ガイド 第2版（2020.5.29）」
http://dl.med.or.jp/dl-med/kansen/novel_corona/shinryoguide_ver2.pdf
- ・公益財団法人日本スポーツ協会「2020.5.14 スポーツイベント再開に向けた感染拡大ガイドラインについて」
<https://www.japan-sports.or.jp/news/tabid92.html?itemid=4158>
- ・一般社団法人日本フィットネス産業協会「FIA フィットネス関連施設における新型コロナウイルス感染拡大対応ガイドライン(2020.5.25)」
https://www.fia.or.jp/wp-content/uploads/2020/01/fia_guide.pdf